

令和6年3月

自民党青年局ダンサー宴会

青野正宏

### ちょんがれ

自称は／さわやか	未来を／背負ってる	新進／気鋭の	青年／代議士
裏金／問題	幹部を／突き上げ	ところが／どっこい	実態／スケベな
中年／オヤジら	研修／済んだら	お目当て／なるのは	公費で／実施の
打ち上げ／宴会	多様な／社会を	目指して／呼ぶのは	GOGO／ダンサー
過激な／衣装で	おさわり／自由よ	チップを／渡すは	口から／口へと
昭和の／感覚	どっぷり／そのまま	結果は／残念	ばれたぞ／大変
自民の面目	またまた／失墜	どうする／どうなる	役職／辞任だ
それでも／困難	信用／回復		

### 百人一首替え歌

だれもかも 知るひとにせむ 和歌山の セクシーパーティ 世間は泣くに  
口移し チップの金で 引き止めよ ダンサの姿 しばしとどめん  
忍れど 顔に出にけり わが行為 おさわり有無を 記者が問うまで  
党挙げて ダンス隠蔽 謀れども ライバル派閥 これを許さじ  
物足りず 宴(うたげ)にダンサ 眺めるば いくも同じ 助平オヤジか

### ちょんがれについて(伝笑鳩に入れる内容ではないですが、同人のための説明)

「段々／糺して よいこと／聞いたぞ おいらが／周防に お金を／取られて  
ねっから／いままで お役も／こないで つまらぬ／ところだ 一番／りきんで  
周防に／泡をば 吹かせて／拙者が お役に／なろうと 厳しき／詮議で  
云々」

海音寺潮五郎の列藩騒動録・仙石騒動に記載されていた江戸時代末期の流行歌「ちょんがれ」の一節 寺社奉行脇坂安董(やすただ)が時の実力者松平周防守に賄賂を贈って老中になりたいと運動していたが、効果がなかったところ、仙石騒動をきっかけに松平周防守を失脚させ、自分が老中に出世したことをうたったもの。余談だが脇坂安董は「また出たと 坊主びっくり 貂の皮」の川柳でも有名

普通は俳句、川柳、狂歌、どどいつのように一句が奇数のものが普通であるが、上記例では4音節+4音節で一句となっている。節回しは不明。上記の例の前後は不明。4音節+4音節の囃子言葉とひとつとして採用してその囃子言葉として先月と今月の作品を作成した。ただ、ちょんがれを検索して解説を見ても必ずしも4音節+4音節でないので実態は不明である。